

上越だより

丸山正記*

今年の4月、私にとっては二十数年ぶりの上越に移ってきてからほぼ半年余りが経過した。二十数年ぶりといっても生活したのは、実家の大島村から離れ当時の高田に下宿し、高校時代をおくった三年間にすぎない。生来の方向音痴で、あやふやな記憶はあるものの、浦島太郎みたいなものである。ときおり、二十数年ぶりに出会う一こまが、懐かしく感じとれた気分も、だんだんと薄れかけてきたこの頃である。

上越市は、直江津と高田の両市が合併して、昭和46年に誕生した人口13万の市である。規模を同じくする二つの市の対等合併は、日本の自治史上例が無かったそうで、ちなみに、今年茨城県の勝田と那珂湊が合併して、ひたちなか市が誕生したのも上越市以来との事である。

行政上は上越市であるが、古い呼び方の方が馴染んでいるむきもある。

直江津には、古代越後の中心だった国府が、奈良時代には越後国分寺が置かれ、栄えたところであるが、最近国府は直江津（五智付近）ではなく、新井・板倉付近にあったとする説もあるそうである。今も五智国分寺や寺社が多い、佐渡への一方の玄関口となっている。

高田には、上杉謙信ゆかりの史跡や松平忠輝築城の高田城跡などが点在している。また、110余ヶ所も寺があり、そのうち半分以上が親鸞の説いた真宗である。

春日山公園は、上杉謙信の居城を中心としたもので、春日山の中腹に春日山神社（童話作家小川未明の父、澄晴によって明治34年創建）山麓に林泉寺・春日神社がある。

境内の山桜や新緑の薫も素晴らしいが、さわめつけは今頃（11月中旬）の紅葉である。まさに真っ赤であるけれども、深紅・橙黄・黄緑等さまざまな彩りの集まりが、一本のモミジのなかで同居しているのである。しかも、杉木立の濃い緑や銀杏の鮮やかな黄色などと織りなすコントラストの妙は、息を呑むほどの美しさである。

林泉寺は上杉家の菩提寺で、苔むした茅葺き屋根の惣門（春日山城の城門を移築したもの）のたたずまいは、古刹の由緒を偲ばせてくれる。

私の住まいは、この春日山のすぐ麓である。息子達は、ザリガニ捕りに興じ、毎日泥んこ。挙げ句の果ては春日山の坂道で、大怪我。女房殿は、2月に生まれた三男の数年振りでの育児。私はゴルフの点数稼ぎに、息子達と海（目の保養）や近くの露天風呂へ……。

まもなく、スキーシーズンである。今年からは、息子達に教えがてらそれこそ二十数年ぶりにスキーを再開しようかと考えている。

* (株)興和 上越営業所